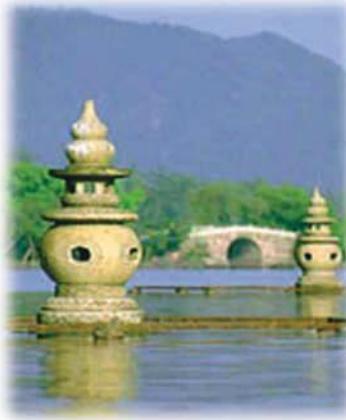
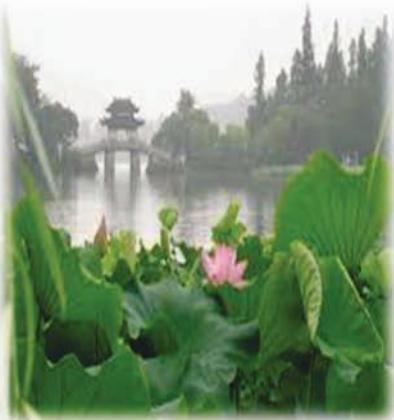


静岡県日中友好協議会

No.126

2022. 3

# NEWS LETTER



## 視窓

## 秀麗な中国四大西湖 《杭州 西湖》

西湖は、その美麗さから、2006年に、国指定の「旅游景区」にも指定されました。その後、2011年には、文化遺産としての価値を世界的にも認められるに至り、西湖の文化的景観の名称で世界遺産に登録されました。

蘇軾（蘇東波）：「湖上に飲す初晴後に雨、水光潋滟（れんえん）として晴れてまさに好く、山色空濛（くうもう）として雨もまた奇なり。西湖を把て西子に比せんと欲すれば、淡粧濃抹すべて相よろし。」と讃えています。

# 特集 ~ コロナ禍、オンラインでの事業を模索 ~

依然として続くコロナ禍、人的往来が制限される中にあっても、双方の努力によって、友好交流の明かりはともされ、オンライン・リモートを利用して浙江省との交流事業の計画・実施の試みが行われています。

## 《浙江友協と懇談、民間交流を促進することに共通認識》

3月9日、本協議会では、静岡県日中友好協会と合同で、浙江省人民対外友好協会との間でオンライン交流懇談会を開催しました。懇談会では、オンライン上ですが、三団体の役員が一堂に会して、静岡側は本協議会から栗原績理事長、県日中友好協会から天野一会長がそれぞれ発言し、浙江側は陳奕君会長（浙江省党委員会秘書長）が発言し、民間交流が果たす重要性をあげ、引き続き促進していくこと、併せて友好提携40周年であることから、民間サイドからも、オンライン+オフラインの複合形式での記念事業の計画・実施の可能性を模索していくことで共通認識をもちました。懇談会には、浙江側は、友好協会以外に、青年、女性、教育、経済の行政機関・団体も同席しました。



静 岡 会 場



陳奕君会長

## 《オンライン研修事業、介護、環境で講義》

静岡県では、海外技術研修員受入事業として、1981年から毎年浙江省を中心に研修員を受け入れ、県内関係機関や民間企業において研修を実施してきました。現在、人的往来が困難な状況にあることから、代替事業として、初の試み・オンライン研修事業を実施することになりました。

浙江省から「介護」や「環境」に関する関心が高いことから、介護に関する研修を2回、環境に関する研修を1回、オンラインで実施することになりました。

介護では、1月20日に、オンライン介護研修を実施し、介護総合支援事業を展開しているインフィックグループの協力をえて、「日本の介護事情について、介護現場からわかったこと」をテーマに、2月24日に、「ケアの質向上や介護人材確保のためにIoT/AIに期待できること」をテーマに、第2回目のオンライン介護研修を実施しました。

環境は、3月17日に、静岡県くらし・環境部に「県の環境政策」、静岡県環境資源協会に、「エコアクション21」をテーマに紹介しました。

**INFIC集团护理人才培训**



**Basic Skill**  
**护理技能 (知识、技术)**

- ◆ 初任人员进修 (护理基础)
- ◆ 入职进修
- ◆ 商务礼仪进修
- ◆ 定期学习会
- ◆ 定期职位提升进修 (个别护理进修)

**Professional Skill**  
**高级技能**

- ◆ 实践进修 (护理应用)
- ◆ 福利皮肤美容
- ◆ 福利用具专门咨询员
- ◆ 护理ICT培训
- ◆ 管理进修 (操作)

护理综合支援事业 infinite field Casting & sustainable capacity

## 《静岡・浙江経営管理養成講座事業、広義に高いニーズ》

3月3日、浙江省の建徳市とオンラインで結んで、現場の視点からみる日本の戦略的ものづくり手法を浙江省企業に紹介することにより、浙江省の製造企業の管理水準向上の機会とする、オンラインによる『静岡・浙江経営管理養成講座』が開催されました。

当日は、浙江省の製造関連の行政・団体・企業約50名が参加し、日本技術士会中部本部静岡県支部会員の技術士に、「生産ラインの改善技術」と「日本の表面処理技術の最新トレンド」で講義していただき、その後、質疑応答による交流が行われました。現在、中国の製造業は競争が激化する中で、生産管理、品質管理面で高度化転換が求められていることから、時宜を得た講義に熱心に聴取していました。



## 《日中青年代表交流事業、互いの親交を深める》



1月27日、県教委は、新型コロナウイルスの影響を受け、2年連続で中止となっている「日中青年代表交流事業」について、浙江省青年連合会との間で、過去に当事業に参加した人達を交えてオンライン会議を開き、今後の交流について意見交換を行うと共に、相互の親交を深めました。

会議では、今後の交流の仕方について、過去の参加者とホームステイ先の家族がリモートで再会できる機会の提供や、WeChat活用し、相互に写真や動画を使ったオンラインでの交流の推進を求める意見などが挙がりました。

また、双方は共に今年は浙江省と静岡県の友好提携40周年の節目の年でもあることから、新型コロナウイルスの早期収束を願うと共に、2011年度から続いている相互訪問を再開させることに熱い期待と意欲を示しました。

## 交流往来 あの日あの時

### 静岡県－浙江省友好交流の忍耐期 2012年

#### ハイレベルでの相互訪問が実現

2012年上半期、4月には夏宝龍省長を団長とした浙江省代表団が静岡県を訪問し、30周年記念式典が出席したほか、双方共催で「浙江－静岡名品展覧会」が静岡市で開催され、開幕式に出席しました。夏宝龍省長が県内滞在中、浜名湖湖上で行われた浜松市と杭州市友好都市協定調印式に同席しました。6月には、双方共催で「静岡県・浙江省2012緑茶博覧会」が開催され、川勝県知事をはじめ、県議会、茶商工業者や茶道関係者が浙江省を訪問し、開幕式に出席しました。

2012年下半期、尖閣問題で日中関係が対立する局面になり、予定していた記念事業計画が縮小、中止、延期になり、少なからず影響をうけましたが、12月には双方の努力により、川勝県知事をはじめとする静岡県代表団が浙江省を訪問し、杭州市で規模を縮小した30周年記念式典に出席し、双方は、脈々と続く地方間交流の重要性を確認しました。



#### 双方が共催で展覧会を実現

##### 「浙江－静岡名品展覧会」



静岡市のツインメッセを会場に、浙江省から県下市町と友好提携を結んでいる6市県（湖州市、嘉興市、紹興市、紹興県〈現：柯橋区〉、麗水市、杭州市）の企業を中心として95社が出展し、特産品が並べられました。浙江省の伝統文化を静岡の人々に身近に感じてもらうため、会場内には実演エリアや試食コーナーが設けされました。静岡県側からも、浙江省6市県と友好都市提携を結ぶ6自治体や酒造組合等が自慢の品を紹介し、会場には、多くの県民が来場し、にぎわいました。

##### 「静岡県・浙江省2012緑茶博覧会」

両県省の主要農産品である「緑茶」は共通の関心テーマであることから、双方は共催で「静岡県・浙江省2012緑茶博覧会」を杭州市の世貿博覧中心で開催しました。これまで交流事業の中でも初の試みであり、静岡茶の試飲による紹介や、茶道関係者による茶道披露などが行われ、杭州市民に注目されました。

東日本大震災に伴う放射性物質の問題で中国の輸入規制が解除されていないため、静岡茶を販売することができませんでしたが、出展者の方々からは「中国の方のお茶に対する関心や嗜好の把握ができた」との声が多く聞かれました。



## 展示会から見える中国ビジネス

# 全農による中国での日本の農産物加工品輸入販売



静岡県中国駐在員事務所長 浅原 敏治

コロナ禍で日本国内での外食や土産品向けの食品の需要が落ち込む中、中国に新たな市場を獲得しようと、このほど、和歌山県のJAわかやまは、JA全農グループと連携して、管内産新生姜を使ったジンジャーエール「生姜丸しぼり」の中国向け輸出に乗り出しました。

JAわかやまから、販売やPRを依頼された全農（上海）貿易有限公司（全農グループの中国の現地法人）は、上海市内や隣接する江蘇省蘇州市のスーパー・マーケットにある全農の専用販売コーナーに商品を陳列し、2021年12月からは販売促進イベントを行っています（写真参照）。この商品は、プレーン味のほか、桃や梅を混ぜたものもあり、桃味を試飲したところ、ほんのり甘い味わいがして美味しかったです。イベントでは焼酎やウィスキーをこの商品で割って飲むことを勧められていました。中国では低アルコールのお酒の人気が高まっていて、お酒との組み合わせで商品の宣伝効果を高めていくとのことです。



日本の農産物の中国への輸出は難しい中、農産物を加工して作られた飲料は中国への輸出はできるようです。全農（上海）貿易有限公司の辻野智彦董事長に伺ったところ、JAわかやまのジンジャーエールが輸入できることから、ジュースに加工したものは中国に輸出できる可能性が高いとのことでした。辻野董事長から、静岡県にも農産物を加工して作られた飲料があれば、中国に輸出してみてはいかがかとのアドバイスもいただきました。

静岡県の農産物を加工して作られた飲料では、昨年11月の中国国際輸入博覧会で出展した静岡県産みかんのジュースは、来場者に好評でした（静岡県日中友好協議会NEWS LETTER No125 5頁参照）。このジュースは、収穫したみかんをすぐに搾らず、貯蔵し、一番おいしくなった時期に搾るという大変手間のかかった製造工程を得て生産されている商品です。中国市場には国内外産のオレンジジュースが溢れていますが、輸入博で好評だったみかんジュースは、現在、いくつかの商社と商談が進められています。この商品のように本県が誇る技術で作られた農産物加工食品は他にも多々あると思いますが、これらが中国市場に並べば、本県の新たな魅力を中国の皆さんに知ってもらう機会にもなります。

全農上海は、生姜丸しぼりを2月14日の情人節（中国のバレンタインデー）の贈答品として紹介するキャンペーンを同社のSNSで行いました。来年の情人節には、静岡県の農産物を加工した飲料もキャンペーンで中国の皆さんに紹介できたら素晴らしいと思いました。

## 寧波の人々－過酷な競争社会の中の学生たち

寧波大学外国語学院外籍教師  
静岡県立大学グローバル地域センター客員講師  
(静岡県日中友好協議会 交流推進員)

横井香織



今回は、寧波の学生たちの生活スタイルや価値観を紹介します。



寧波大学正門

中国では、毎年6月になると「高考」(全国統一大学入試)が行われます。日本でいう大学入学共通テストで、この試験の成績が若い人々の未来を大きく左右します。試験は1000点満点で、自己採点をして受験する大学を決めます。多くの学生は、全国の4年制大学約1300校の中で、国家重点大学(約110校)に入学したいと考えています。重点大学に入学できれば、公務員や国営企業などに就職できる可能性が高いからです。重点大学に入り、よい就職先を見つけて、高い収入や安定した生活を手に入れたい。こうした考えは学生のというより、親の願いです。

大学に入学すると同時に、寮生活が始まります。高校も寮生活なので、ルームメイトのいる共同生活には慣れています。寧波大学の学生寮は4人部屋で、部屋にはトイレ、

洗面台、シャワー室があります。厨房はありません。食事は学生食堂や宅配、外食になります。授業は朝8時から夜8時25分まで行われ、さらに10時まで自習できるように教室が開放されています。日本の大学生に比べて授業数が多く、予習復習やテスト準備に追われて、ほとんどの学生がアルバイトやサークル活動をしています。それでも高校までの勉強漬けの生活よりずっと楽しいと、学生たちは言っています。

学生たちにとって、大学は受験勉強の重圧から解放され、自分と向き合う場です。小・中・高では、勉強だけできれば良かったので、家事をしたことがなく、自分の将来を考えたこともなかった、そういう学生にたくさん出会いました。しかし、大学ではそういうわけにはいきません。成績に関係なく、多くの学生が目標のないことや未来を描けないことに悩んでいます。経済の急速な発展は競争を激化させ、格差が拡大しました。実力があっても、希望する職業や会社を見つけることが難しくなっています。学生が、将来に不安を感じるのも仕方ないかもしれません。

それでも、幼くて頼りなく見えた大学1年生が、4年生になると就職先や進学先を決めて巣立っていく姿を見てきました。4年間の大学生活は、学生が自分と対話し、生き方を考えるよい機会だったのだと思います。今年の6月、中国の大学新卒者が初めて1000万人を超えます。若い人々の未来が明るいことを願っています。



寧波大学の学生寮

## 浙江省の非物質文化遺産を巡る旅

### 江南糸竹

江南糸竹は、浙江、江蘇、上海を中心とする長江以南の江南地方で広く伝播している管弦合奏の民族音楽を指します。「糸」は二胡、琵琶、揚琴、三弦などの弦楽器を指し、「竹」は笛、笙、簫などの竹製の気鳴楽器を指し、弦楽器と管楽器で構成され、中国の無形文化遺産の一つになっています。

古来、地理的環境に恵まれ、経済の繁栄とともに、文化も発展してきた江南地方は、音楽文化も独特の郷土色と生活の息吹の中で、『江南糸竹』の民俗音楽が発展してきました。一部の文化人が嗜む音楽から、広く農村部に広がり、冠婚葬祭の活動で演奏されるほど定着していきました。その後、1960年代から70年代にかけて、時代の影響もあり、江南の伝統的な糸竹演奏グループは、ほとんどが解散してしまいますが、国は非物質文化遺産の保護を重視するために、2006年5月、第1期国家級非物質文化遺産リストに『江南糸竹』を登録し、再び日の目を浴びるようになりました。

浙江芸術職業学院は、国家級無形文化遺産の伝承と革新を推進するために、同学院に『江南糸竹』の音楽演技専門科目を設置し、2017年には江南糸竹音楽國家級伝承者・沈鳳泉専門家スタジオを設立し、『江南糸

竹』学術講座、楽譜整理、コンサートなどの活動を行っています。また、有名な作曲家を招聘して、浙派・江南糸竹音楽の伝承と革新に対して効果のある活動を行っています。

『江南糸竹』は、鮮明な地方風格を持ち、優美、精緻、華麗な曲調の演奏が得意であり、その中で有名な楽曲は、「歓樂歌」、「雲慶」、「行街」「四合如意」、「三六」、「慢三六」、「中花六板」、「慢六板」の江南八曲です。使われる楽器は、一般的に、弦楽器の二胡、揚琴、琵琶、三弦、気鳴楽器の笛、笙、簫、打楽器・鼓板の8つの楽器で構成され、略称、「老八件」と呼ばれています。演奏形式の

ほとんどが合奏で、時には揚琴、二胡、琵琶、簫の4つの楽器だけでの小合奏になります。『江南糸竹』のバンド編成は、一般的に少ないと2～3人、多くても7～8人の規模です。

『江南糸竹』の旋律は、叙情的で優美で、清新で耳に心地よく、その技法は多彩で、次々と音楽情感の変化が表れることから、「小、細、軽、雅」の風格が醸し出されます。江南水郷の音楽文化の傑出した代表格であり、民族音楽史、戯曲、民俗などの面でも、実践・理論研究の対象になるほど広く庶民に愛されています。

**非物質文化遺産**：中国では「各民族が代々に伝承され、一般庶民の生活と密接に関わっている各種伝統文化の表現形式（例えば民俗活動、演技芸術、伝統知識と技能、及びそれと関連する器具、実物、手作業製品等）と文化空間のことである。」と定義されています。日本の文化財保護法によると、文化財を有形文化財・無形文化財・民俗文化財（有形民俗文化財と無形民俗文化財）・記念物・伝統的建造物群の5つに分類され、中国の「非物質文化遺産」は日本の「無形文化財」と「民俗文化財」の内の「無形民俗文化財」を統合したものに近いといわれています。



# ヒストリー・タイムトリップ

## 中国の四大美女

## 西施（不詳）

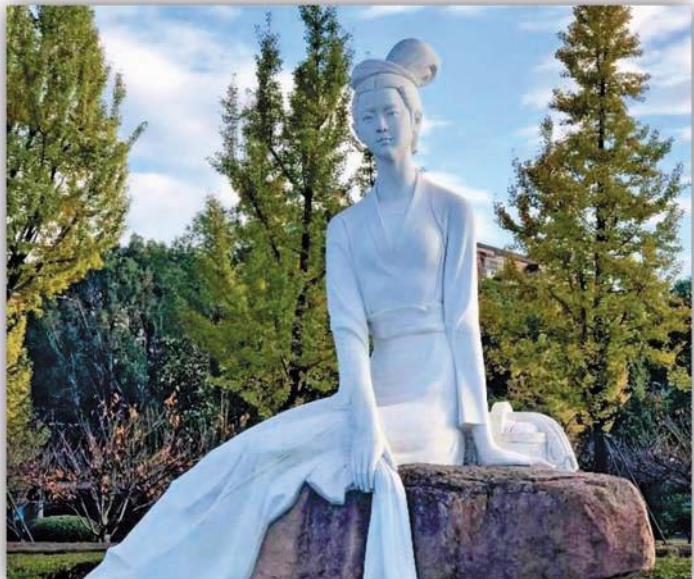


中国では、歴史上、「楊貴妃」、「西施」、「王昭君」、「貂蟬」が四大美女といわれています。西施（生没年不詳）は、春秋時代の末期（紀元前5世紀）、越の国、現在の浙江省紹興市の諸暨の村で生まれました。本名は施夷光だといわれ、この村に「施」という苗字の家が村の東側と西側に2軒あったことから、西側の施であった彼女は、西施と呼ばれるようになりました。また、彼女は「沈魚美人」とも呼ばれ、彼女が「浣紗（川で洗濯をする）」をしていた時、そのあまりの美しさに、まわりの魚たちが泳ぐのを忘れて沈んでいったことに由来しています。

### 呉王・夫差が見とれた西施

春秋時代、隣り合わせた呉と越は、たびたび戦いを繰り返していました。越王の勾践（こうせん）が呉の先手を打って攻撃しますが逆に敗北し、勾践が呉王・夫差（ふさ）の奴隸となることで和睦しました。勾践は国に戻ると、かつての苦しみを思い出し復讐を誓います。勾践の部下に范蠡（はんれい）という優秀な武将がいました。越は呉を打ち破るために呉王・夫差に美女を献上して戦意を失わせようとする策略を立て、范蠡は美女をさがして国中を歩き、そこで西施を見出します。その後、西施は呉王・夫差の元に送られ、夫差は狙い通り、西施の美しさの虜となって政治や国防をおろそかにし、その結果、呉はついに滅亡に至ります。

呉の滅亡後の西施は、一説では呉王が亡くなる前に、西施を皮衣に包んで長江に沈められてしまったという話や、もともと魅かれ合っていた范蠡とともに越から逃げ出し、その後二人で幸せに暮らしたという話など、様々な伝説が残っています。昆劇の代表作、明代の戯曲『浣紗記』では、ハッピーエンドの最期が描かれています。この物語では、越の將軍・范蠡と西施が、出会って互いに一目ぼれしますが、その後、西施は、貢物として呉王の元に送られ、呉は滅亡しますが、その後范蠡と西施の二人は再会し、太湖に舟を浮かべて愛を語り合うという内容です。



### 情人眼里出西施

李白の詩「西施越溪女、出自苧蘿山」の中の「苧蘿（ちょうら）山」は、諸暨市南部の浣紗江の畔にあります。その苧蘿山の麓の巨石に、書聖・王羲之が「浣紗」の字を刻んでいることから、西施が洗濯をした場所として伝わっています。

西施に関する言葉は、今も複数残っています。例えば、中国には「東施効顰」（東施ひそみにならう）という故事成語があり、これを日本語では「西施のひそみにならう」と訳し、人まねをして物笑いの種になる・人のやり方を踏襲することをへりくだっている…などの意味で使われています。西施が出てくる故事成語に、「情人眼里出西施」（恋人の目には相手の姿が西施のように美しく見える）というのがあります。中国では、この故事成語は今もよく使われています。